新型インフルエンザに関する「開国博 Y150」の対応について

世界各地に急速に拡大した「インフルエンザ A(H1N1)」に対して、「開国博 Y150」においては、主催者である(財)横浜開港 150 周年協会(以下「協会」と連携して、万全の対応を図ってまいります。

1 これまでの経過

	国、市等の動き	協会の動き
4月28日 (火)	WHO(世界保健機関)が新型インフルエンザについて警戒レベルをフェーズ4(ヒトからヒトへの感染が確認)とした。	「開国博 Y150 新型インフルエンザ対策室」を設置 各会場に「衛生管理への対応」についてポスター(A3版)約30枚を掲出し、注意の喚起と運営上の対応を案内
	「横浜市新型インフルエンザ対策本部」を設置、第1回本部会議	
4月29日 (祝)		マスク、赤外線サーモグラフィについて設置を検討
4月30日 (木)	WHOが警戒レベルをフェーズ5(世界的大流行のリスクが高まっている)に引き上げ	「開国博 Y150 新型インフルエンザ対策本部」を設置(対策室より格上げ) 新型インフルエンザ対応訓練実施、マスク10万枚発注
5月1日 (金)	市内において、疑い例が報告されたが、新型インフルエンザでないことが確認(5/3にも同様例)	対策本部会議開催
	第2回横浜市新型インフルエンザ対策本部会議開催	
5月2日 (土)		対策本部会議開催、ポスターを大型版に置換え、洗面所に消毒用アルコール配置
5月9日 (土)	成田空港に到着した乗客3名に、新型インフルエンザ感染確認(翌日1名増加)	
5月11日 (月)	第3回横浜市新型インフルエンザ対策本部会議開催	市対策本部会議で決定した10項目について、協会内で情報共有

2 今後の対応

- ・ 事態の推移を見守りつつ、関係機関とも連携し、来場者に対して衛生管理について十分な配慮と啓発、情報提供を行っていきます。
- ・ 国内で感染者が発生した場合などにおいて、本市より「新型インフルエンザ対策行動計画」に基づき、「市民の社会活動の自粛要請」がなされた場合には、協会において「緊急対策会議」が開催可否について判断し、理事会を開いて決定いたします。